

犬の生活

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マダ-ブ ナラエン マナンダ-ル

ネパールでは日本のように愛玩犬として犬を飼う習慣はなかった。昔は2種類の犬がいた。大多数は野良犬で、避妊もされていなかったので自然に増えた。信心深い国民性から無用な殺生はされず、保健所で処分されることもない。ネパールではネズミやゴキブリさえも殺さず、捕まえても外に逃がす。全てそうかどうかは分からないが、街で増えた犬たちは仕方なく森や山に捨てられた。もう一つの少数派の犬たちは人間のために役割を与えられ、番犬(家庭や地域)として飼われるのが殆どであった。

しかし今では4種類の犬がいる。ストリートドッグ(野良犬)、ペット(愛玩犬)、職業犬(警察犬、麻薬探知犬、盲導犬等)、地域犬(番犬)である。

一番気楽なのは野良犬かもしれない。道路を悠々と歩く神聖な牛たちと同じように道路の真ん中で寝そべったり、のんびり道路を横切ったり、、、時には車にひかれる犬もいるけれど、殆どは車や歩行者の方から避けてくれる。餌には不自由しない。至る所にゴミの山があるし、お肉屋さんとか、やさしい人からとか貰える。

10月末から11月にかけてのティハール祭の2日目にククルブジャ、犬の日がある。その日は閻魔大王の使いと信じられている犬を大切に



する日でティカを額に付け、マリーゴールドの花輪をかけて、ご馳走を食べさせる。野良犬だって他の犬たちと同じようにブジャ(祝福)される。

猫への待遇とは大違いである。

最近では犬をペットとして飼う家庭も増えて、都会の犬の生活もだいぶ様変わりした。人気のある犬はアルシエーション、グレイハウンド等である。ペットとなると、とても大事にされる。カトマンズでは門から外へ出すことはめったにないが、ちょっと郊外に行くと散歩させているのを見かけることはある。番犬の役だけではなく、家族の一員として、また癒しを求めている愛玩犬としての役割も出てきた。街のスーパーにはペット用品やドッグフードが置いてあり、犬を買うことができるペットショップや犬の訓練所、動物病院がある。外国帰りのペット好きネパール人が増えたためかもしれない。

職業犬はまだ数は少ないが一通り日本と変わらない。

地域犬は昔からのネパールでの犬の飼い方である。どこからどこまでを自分のテリトリーとして守っているのか、本能的に不審者を嗅ぎ分ける術は素晴らしい。警察学校の教官としてもやっていけるのではと思う。都会では野良犬となってしまう犬たちも山岳地帯へ行くと立派な地域犬として住民を守る。旅行者や見知らぬ人にむやみに吠えたりはしない。怪しい人や物事を見分ける。特に夜は野生の動物たちから住民を守っている。ちょっと褒め過ぎたかもしれない。犬も人間と同じように多種多様でしょうから。

犬社会にも格差ができた。街で村で、のんびり過ごす犬たちは主人を求めているのであろうか。主人がいなくても危害を加えられる心配はしていないのかもしれない。のんびり過ごす犬たちを見ていると、そう思えてくる。

狂犬病の予防接種に関しては徹底されていないので、旅行者の方は、特に野良犬には近づかないよう、うっかり手を出したりしないように！